

2012年1月1日より、チームと国内連盟は、形態学的な理由による免除競技者についての報告を完成することを要求されないであろう。体系的なチェックが、ロード・タイムトライアルとトラックのパーシュート競技のスタートにおいて実施されるであろう。それにもかかわらず、2様の形態学的な免除の内の1つのみが個々の競技者に与えられ得る事例は継続する。

トラック競技においては4種のポジションがある：

短距離競技（スプリント、チーム・スプリント、ケイリン、フライング 200m、フライングラップ）：サドルの先端は、ボトム・ブラケットの中心を通る垂直面まで前進することができ、ハンドルバーは形態学的な理由による免除なしで前車軸の前方 10cm まで前進することができる。

持久系競技（ポイントレース、エリミネーション・レース、スクラッチ・レースおよびマディソン）：ポジションはロード・レースおよびシクロクロス競技と同一で、サドルは最小 5cm ボトム・ブラケット中心を通る垂直面から後退し、かつハンドルバーの前進位置は前車軸の前方 5cm までである。形態学的理由による免除は、サドル先端をボトム・ブラケット中心を通る垂直面まで前進させることを望む低身長競技者のために、対応する形態学的チェックに合格することを条件として、可能である。

パーシュート競技（インディヴィデュアル・パーシュート、チームパーシュート）：ポジションはロード・タイムトライアルと同一で、サドルは最小 5cm ボトム・ブラケット中心を通る垂直面から後退し、かつハンドルバー・エクステンションの前進位置はボトム・ブラケット中心から 75cm 前方までである。形態学的理由による免除は、サドル先端をボトム・ブラケット中心を通る垂直面まで前進させることを望む低身長競技者のために、対応する形態学的チェックに合格することを条件として、可能である。さらに、ハンドルバー・エクステンションの前進位置をボトム・ブラケット中心から 80cm 前方までとすることを望む高身長競技者のために、対応する形態学的チェックに合格することを条件として、形態学的理由による免除は可能である。形態学的理由のための免除は1つのみ、1人の競技者に許される。

タイムトライアル（500m および 1km）：サドルの先端は、ボトム・ブラケットの中心を通る垂直面まで前進することができ、かつハンドルバー・エクステンションはボトム・ブラケット中心から 75cm 前方までに位置してよい。ハンドルバー・エクステンションの前進位置をボトム・ブラケット中心から 80cm 前方までとすることを望む高身長競技者のために、対応する形態学的チェックに合格することを条件として、形態学的理由による免除は可能である。

2012年10月1日より、500m と 1km タイムトライアルの競技者は、短距離ポジションまたはパーシュート・ポジションを採用することを選択する必要があるだろう。もはや、競技者がハンドルバー・エクステンションをボトム・ブラケット中心の 80cm 前以上に前進させながらもサドル位置をボトム・ブラケット中心を通る垂直面まで進めることはできないであろう。